

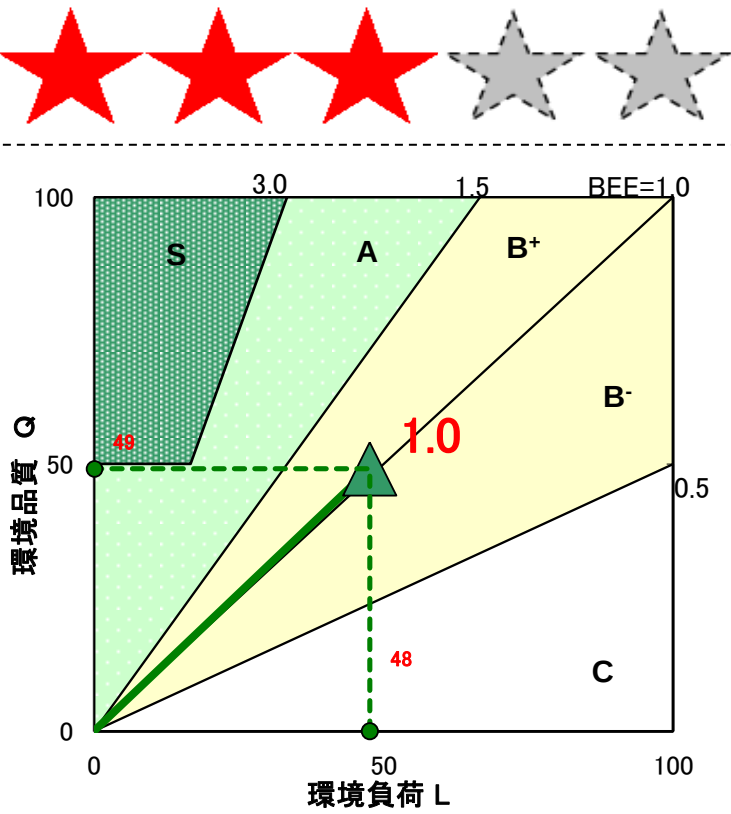
CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要			■ 外観	
建物名称	(仮称)近見4丁目マンション新築工事	階数		
建設地	熊本市南区近見4丁目158-1	構造		
用途地域	第1種住居地域	平均居住人員		
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間		
建物用途	集合住宅,	評価の段階		
竣工年	2014年2月 予定	評価の実施日		
敷地面積	1,832 m ²	作成者		
建築面積	336 m ²	確認日		
延床面積	2,129 m ²	確認者		

1CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

★★★★★



BEE = 1.0

■BEE(環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)

☆☆☆☆☆

排出率

93%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

68

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

【重点事項4】 循環型社会の実現

評価点

62.5

56.2

82.5

76.5

■熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

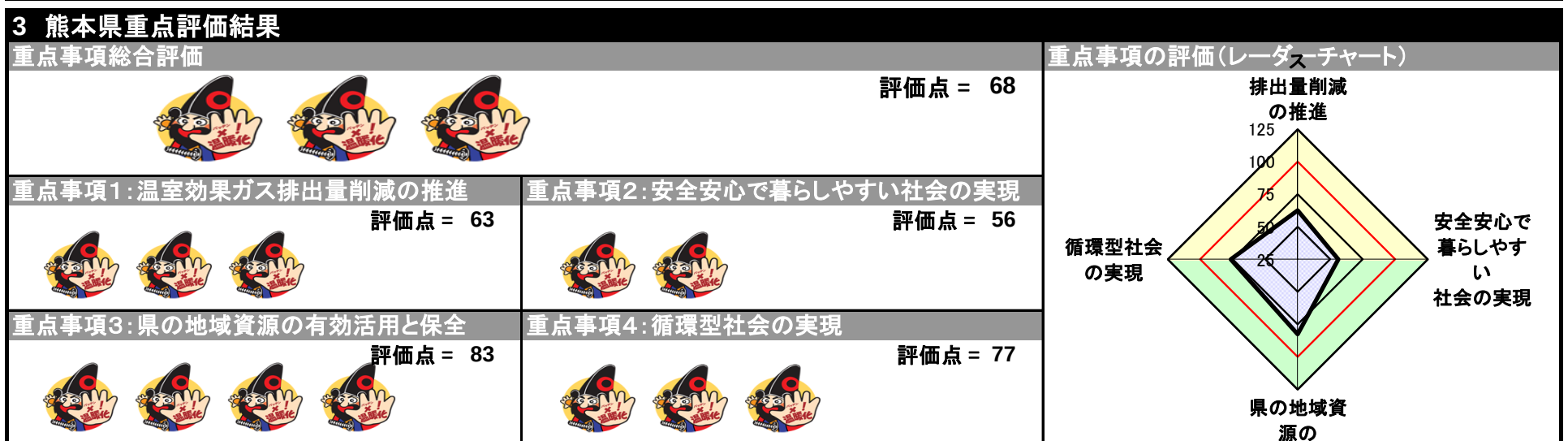
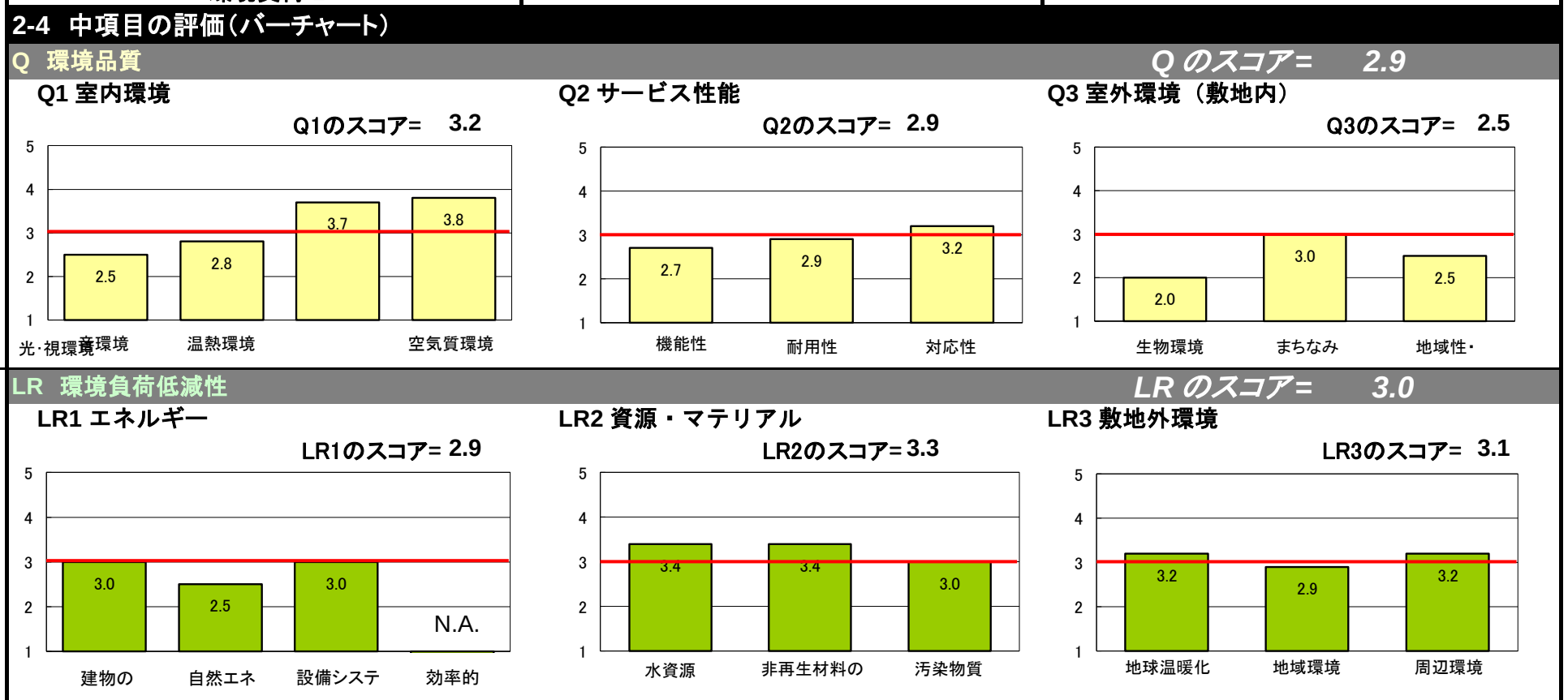
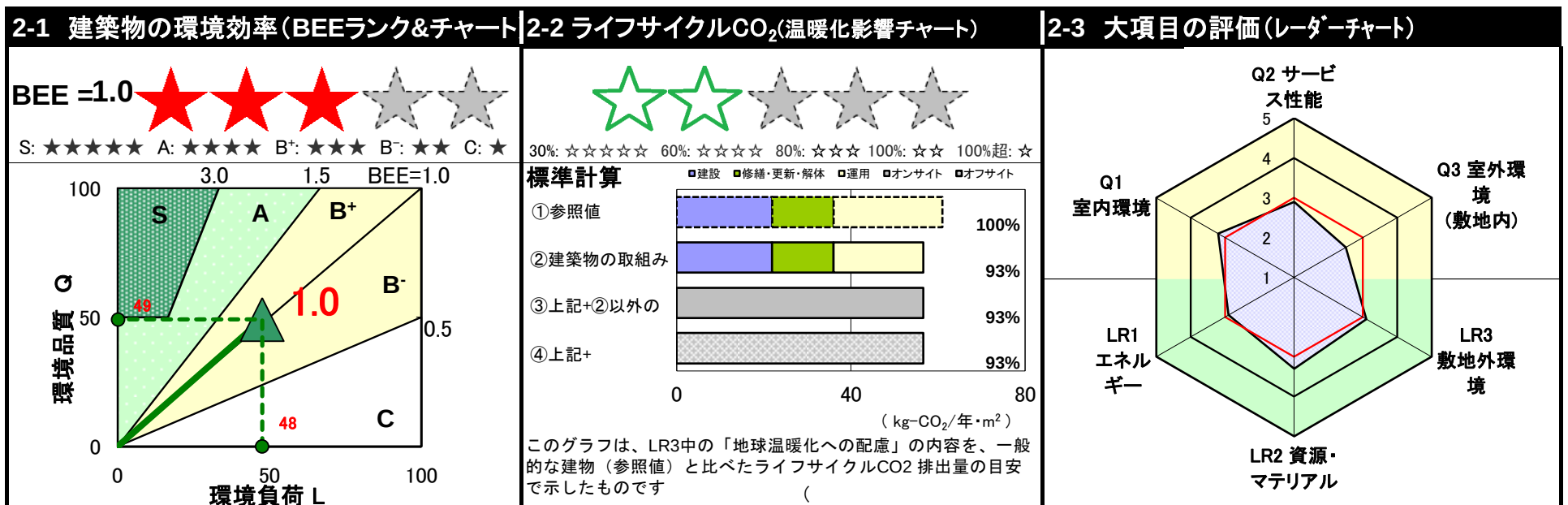
Page : 1/6

Sheet : 1/5

CASBEE® 熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)近見4丁目マンション新築工	階数		
建設地	熊本市南区近見4丁目158-1	構造		
用途地域	第1種住居地域	平均居住人員		
気候区分	地域区分IV	年間使用時間		
建物用途	集合住宅	評価の段階		
竣工年	2014年2月 予定	評価の実施日		
敷地面積	1,832 m ²	作成者		
建築面積	336 m ²	確認日		
延床面積	2,129 m ²	確認者		



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年版
(仮称)近見4丁目マンション新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年版
■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

スコアシート		実施設計段階									
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体			
				評価点	重み係数	評価点	重み係数				
Q 建築物の環境品質								2.9			
Q1 室内環境					0.40			3.2			
1 音環境				3.0	0.15	2.5	1.00	2.5			
1.1 騒音		共用部: 50dB、住居部: 40dB		3.0	0.50	3.5	0.50				
1 室内騒音レベル	3.0			1.00	4.0	0.50					
2 設備騒音対策				-	3.0	0.50					
1.2 遮音				3.0	0.50	1.6	0.50				
1 開口部遮音性能	3.0			1.00	3.0	0.30					
2 界壁遮音性能	-			-	1.0	0.30					
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-			-	1.0	0.20					
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-			-	1.0	0.20					
1.3 吸音				-	-	-	-				
2 温熱環境						1.0	0.35		3.0	1.00	2.8
2.1 室温制御				1.0	1.00	3.0	0.71				
1 室温	-			-	-	-					
2 負荷変動・追従制御性	-			-	-	-					
3 外皮性能	1.0			1.00	3.0	1.00					
4 ゾーン別制御性	-			-	-	-					
5 温度・湿度制御	-			-	-	-					
6 個別制御	-			-	-	-					
7 時間外空調に対する配慮	-			-	-	-					
8 監視システム	-			-	-	-					
2.2 湿度制御				-	-	3.0	0.29				
2.3 空調方式				-	-	-	-				
3 光・視環境						3.0	0.25		3.7	1.00	3.7
3.1 屋光利用				共用部: 3.8%、住居部: 2.4% 東・南面に窓		4.2	0.30		4.6	0.30	
1 屋光率	5.0					0.60	5.0		0.50		
2 方位別開口	-					-	5.0		0.30		
3 屋光利用設備	3.0	0.40	3.0			0.20					
3.2 グレア対策		2.0	0.30			4.0	0.30				
1 照明器具のグレア	-	-	-			-					
2 屋光制御	2.0	1.00	4.0			1.00					
3 映り込み対策	-	-	-			-					
3.3 照度		3.0	0.15			3.0	0.15				
3.4 照明制御		3.0	0.25			3.0	0.25				
4 空気質環境				3.6	0.25	3.8	1.00	3.8			
4.1 発生源対策		F☆☆☆☆の採用		4.0	0.60	4.0	0.63				
1 化学汚染物質	4.0			1.00	4.0	1.00					
2 アスベスト対策	-			-	-	-					
3 ダニ・カビ等	-			-	-	-					
4 レジオネラ対策	-			-	-	-					
4.2 換気				3.0	0.40	3.6	0.38				
1 換気量	3.0			0.50	3.0	0.33					
2 自然換気性能	-			-	5.0	0.33					
3 取り入れ外気への配慮	3.0			0.50	3.0	0.33					
4 給気計画	-			-	-	-					
4.3 運用管理				-	-	-	-				
1 CO ₂ の監視	-			-	-	-					
2 喫煙の制御	-			-	-	-					
Q2 サービス性能						—	0.30		-	-	2.9
1 機能性						1.7	0.40		2.8	1.00	2.7
1.1 機能性・使いやすさ		住居部: 天井高2.6m		3.0	0.40	3.0	0.60				
1 広さ・収納性	-			-	-	-					
2 高度情報通信設備対応	-			-	3.0	1.00					
3 バリアフリー計画	1.0			1.00	-	-					
1.2 心理性・快適性				1.0	0.30	2.5	0.40				
1 広さ感・景観	-			-	4.0	0.50					
2 リフレッシュスペース	-			-	-	-					
3 内装計画	1.0			1.00	1.0	0.50					
1.3 維持管理				3.5	0.30	-	-				
1 維持管理に配慮した設計	4.0			0.50	-	-					
2 維持管理用機能の確保	3.0	0.50	-	-							
3 衛生管理業務	-	-	-	-							
2 耐用性・信頼性				2.9	0.31	-	-	2.9			
2.1 耐震・免震		B2種以上、Eなし		3.0	0.48	-	-				
1 耐震性	3.0			0.80	-	-					
2 免震・制振性能	3.0			0.20	-	-					
2.2 部品・部材の耐用年数				2.8	0.33	-	-				
1 躯体材料の耐用年数	3.0			0.23	-	-					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	2.0			0.23	-	-					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	3.0			0.09	-	-					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	3.0			0.08	-	-					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	5.0			0.15	-	-					
6 主要設備機器の更新必要間隔	2.0			0.23	-	-					

2.3 適切な更新	2.4 信頼性				-	-	-	-
				3.0	0.19	-	-	
	1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
	3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性				3.4	0.29	3.2	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり		階高3.115m		-	3.4	0.50		
1	階高のゆとり			-	5.0	0.60		
2	空間の形状・自由さ			-	1.0	0.40		
3.2 荷重のゆとり				-	3.0	0.50		
3.3 設備の更新性		構造・仕上部材を痛めることなく修繕、更新できる 仕上げ部材を痛めることなく修繕、更新できる		3.4	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-		
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-		
3	電気配線の更新性		5.0	0.11	-	-		
4	通信配線の更新性		5.0	0.11	-	-		
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-		
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出				2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	2.9
1 建物の熱負荷抑制				3.0	0.40	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用				2.5	0.20	-	-	2.5
2.1 自然エネルギーの直接利用			2.0	0.50	-	-		
2.2 自然エネルギーの変換利用			3.0	0.50	-	-		
3 設備システムの高効率化				3.0	0.40	-	-	3.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)		#VALUE!	5.0		-	-		
集合住宅の評価			3.0		-	-		
4 効率的運用				-	-	-	-	-
4.1 モニタリング			-	-	-	-		
4.2 運用管理体制			-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護				3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 節水		節水コマ採用、省水型機器	4.0	0.40	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-		
1		雨水利用システム導入の有無	3.0	1.00	-	-		
2		雑排水等利用システム導入の有無	-	-	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減				3.4	0.63	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減		ー 再生クラシャラン	2.0	0.07	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.24	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-		
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.05	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み			GL工法により分別しやすい、錯綜しない	5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68	-	-		
1		消火剤	-	-	-	-		
2		発泡剤(断熱材等)	3.0	1.00	-	-		
3		冷媒	-	-	-	-		
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮			高効率照明	3.2	0.33	-	-	3.2
2 地域環境への配慮				2.9	0.33	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.6	0.25	-	-		
1		雨水排水負荷低減	-	-	-	-		
2		污水处理負荷抑制	3.0	0.33	-	-		
3		交通負荷抑制	3.0	0.33	-	-		
4		廃棄物処理負荷抑制	2.0	0.33	-	-		
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		光害対策の過半を満たす	3.0	0.40	-	-		
1	騒音		3.0	1.00	-	-		
2	振動		-	-	-	-		
3	悪臭		-	-	-	-		
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-		
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-		
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-		
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-		
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		5.0	0.70	-	-		
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-		

CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

周囲の景観に調和するようシンプルな外観デザインとした
ゆとりある間取りで各戸の快適性を重視した設計とした

Q1 室内環境

居室の窓を大きくし、通風・採光の確保に努め、快適な住空間を目標とした。
使用建材はF☆☆☆☆製品とし、化学物質汚染被害を防止する。

Q2 サービス性能

将来の更新を想定し、住居部はビニールクロスを採用。
階高を十分に確保し、設備機器等の更新に備える。

Q3 室外環境（敷地内）

外壁材（タイル）の彩度を落したデザインとし、周囲への太陽光の反射やグレアの軽減を図る。

LR1 エネルギー

日射遮蔽性を図り、断熱性能を高めるよう、庇を広く計画した。
グレアの軽減も図る。

LR2 資源・マテリアル

地業工事には再生クラッシュラン等を利用する。
ハロン消火剤を使用しない。

LR3 敷地外環境

限られた敷地内でできる限りの駐車台数・駐輪台数を確保した。
ゴミ置場を設け、悪臭が周囲へ漏れないようにし、景観に配慮した。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称

(仮称)近見4丁目マンション新築工事

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v1.3)_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		68.0
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				62.5	0.40	25.00
Q1-2.1.3	外皮性能	1.0	0.15			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.00			
Q1-3.2.2	昼光制御	2.0	0.00			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	3.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	2.5	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	3.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				56.2	0.20	11.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	1.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				82.5	0.20	16.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				76.5	0.20	15.30
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	2.8	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数